

平成25年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1 幅広い生徒の学習希望に応えるため、専門スキルを身に付けられる学習機会を提供し、工科高校として特色ある学校づくりをめざす。	①これまで以上に各種検定や資格取得に取り組めるように工夫する。	①検定や資格の取得者を増やし、生徒の学習意欲を高めたか。	○計算技術検定4級は82.3%で目標の80%は超えたが、計算技術検定3級は48.6%（目標50%）、情報技術検定3級は23.4%（目標30%）で目標には達しなかった。 ○ジュニアマイスター顕彰では、ゴールドが2名、シルバーが5名とより多くの資格を取得する生徒が増えた。	○やればできるという自覚を持たせることは達成できたが、「やらなかった」生徒をどのように課題に向かせるかが課題である。 ○より良い達成状況に向けて、演習時間の確保・各種行事との調整・生徒の意欲喚起においてバランスのとれた指導を行なう必要がある。 ○検定問題集を購入させることで合格率を向上できると思われるが、保護者負担増も考慮する必要がある。	<p>(保護者)</p> ○勉強だけではなく、技術や資格が取れるなど、他校にはない特色があって良いと思う。 ○取れるチャンスがあれば、どんどん資格を取得すれば、いろいろな武器を持つことになるので、自信を持って就職や進学に望めると思う。 <p>(学校評議員)</p> ○多感な高校生には厳しさだけではなく、ほめることでやる気を引き出すことが大切だと思います。テストがたとえ60点でも、ほめることが大切。そして、高校生は楽しく高校生活を送ることも大切だと思う。 ○工科高校として、幅広い学習ニーズに対応する多様で柔軟な教育を実施しているが、各科目間の連携や知識技能の系統的な育成が必要である。	<p>(学校評価)</p> ○計算技術検定、情報技術検定等の資格取得に積極的に取組み、上級の資格に挑戦する生徒も増え、ジュニアマイスターゴールドを2名取得した。 ○体験的・発展的な学習活動のため、高大連携を推進した。 <p>(改善方策等)</p> ○資格取得や高大連携の更なる推進のため、全職員の協力体制を確立し、学校全体で取り組む。
	②体験的・発展的な学習活動に工夫を凝らし、高大連携を推進する。	②大学と連携した学習機会の提供ができたか。	○湘南工科大学（模擬授業・施設見学）、関東学院大学（課題研究指導）、産業技術短期大学校・東部及び西部総合職業技術校（技術講習）等と連携した学習を行った。	○多くの生徒に大学等での学習機会を提供したいが、受け入れ先の確保が課題である。 ○課題研究を通して多くの大学等と連携を推進していく。		
	③年間学習指導計画の内容を見直し、学習目標・到達目標を生徒のわかりやすいものとする。	③年間学習指導計画によって、授業の到達目標や評価の方法が示され、生徒の学習意欲が高められたか。	○年間を通じて年間指導計画を活用し、教育課程説明会用の資料の充実を図るとともに、結果として次年度履修計画(科目選択)が例年より大幅に早く確定できた。 ○新カリキュラム導入2年目に向けて、1月までに年間学習指導計画の改定案を作成することができた。	○年間指導計画だけでなく、教育課程説明会の資料全体の構成の見直し・改定が必要である。 ○科目選択の結果が満足のものであったかどうかの検証が今後の課題。		
2 規範意識を身に付けさせ、社会から期待される主体的な行動力を持った生徒の育成をめざす。	①生徒と教職員のコミュニケーションを密にするともに、一人ひとりの状況に応じた指導を行う。	①・遅刻、頭髪・服装のルール違反、特別指導の件数が減少したか。	○生活態度全般について、HR指導を中心に行なってきた。注意事項・連絡事項を掲示物によって伝達し、遅刻については、担当教諭から回数に応じた指導を行なうことができた。 ○遅刻については、自発的に改善できない生徒には、朝の奉仕活動に参加させ、改善への手助けとした。 ○頭髪服装、授業マナーについては段階的な指導を行い、自覚を持たせることで一定の成果があった。	○遅刻回数に応じた指導のように、保護者の協力・理解を得た上で、生徒個々に意識向上を促す指導が必要である。 ○朝の奉仕活動により遅刻数が減少した生徒もいたが、効果のない生徒も若干いるので、今後の検討課題である。 ○頭髪服装、授業マナーの指導や立ち番指導等予防的指導は引き続き実施する。	<p>(保護者)</p> ○校則違反者への徹底指導の強化や遅刻者をゼロにする取組みが必要。 ○生活習慣や態度を強化して、勉強が出来なくても人間性のある生徒の学校にして欲しい。 ○厳しく指導するだけでなく、子どもたちの内面もみて指導して欲しい。 ○生徒と保護者が連携して学校をきれいにする企画を実施する必要がある。 <p>(学校評議員)</p> ○色々な問題が起こりうる状況で、子どものことを考えて対応している。 ○制服の乱れは規律にも関係するので、規律を守って生活するよう意識させることが必要である。 ○遅刻については、生徒や家庭の状況が変容しており、生徒の責任ではなく、保護者がお弁当を作るのが遅くなった等の理由もある。どうして遅刻するのかという理由が分かれば対応できることもある。	<p>(学校評価)</p> ○基本的生活習慣（遅刻、頭髪、授業マナー）は良くなり、指導件数も減少した。 ○校内清掃や5S活動により、環境整備が充実した。 ○スクールカウンセラーによるきめ細かい教育相談が実施できた。 ○ケース会議や全職員参加の教育相談会議により、情報の共有化が図れた。 <p>(改善方策等)</p> ○基本的生活習慣の確立に向けては、全職員の共通理解のもと、きめ細かい指導に努めるとともに、段階的指導により生徒の変容を導く。 ○PTAと連携した環境整備を実施する。
	②藤工WAYを策定し5S活動を定着させる。	②・藤工WAYが設定できたか。	○生徒会役員生徒と話し合い、開校から11年目が過ぎ、本校の生徒の心構え、奮起するような行動指針として考えた。 ○生徒会の生徒の中でも意見が割れた。向こう10年の目標として、「築こう伝統、磨こう自分」という行動指針を掲げていく。	○生徒が見て、分かりやすく、やる気が起こす言葉で考える必要がある。 ○今後、生徒会行事などで、「伝統をつくっていこう」ということに触れていく。		
		②・5S活動が計画通りできたか。	○7月にホームルーム教室18箇所の5S点検を環境委員会による実施した。 ○10月1日の部活動の日に点検及び片付けを行った。 ○ごみ箱の分別は習慣づいた。	○実習服、体操着、柔道着、教材をロッカーに収納できない生徒がいるので、日々の整理整頓を習慣づけさせる。		
	③スクールカウンセラーと連携して教育相談体制を充実させるとともに、教育相談会議や研修会を有効に機能させ、全職員が共通理解を持って教育相談にあたる。	③・スクールカウンセラーや専門機関等と連携して、適切な対応ができたか。	○「発達障害の現状及びケース研究」をテーマに研修会を実施（7/26）し、職員の理解を深めることができた。 ○生徒・保護者・職員が、それぞれにスクールカウンセリングを利用できた。	○研修会後のアンケート結果を参考にして、具体的・実践的な事例対応に関する研修会を設定する。		
		③・ケース会議を実施し、個別の支援ができたか。	○5月と11月に教育相談会議を行い、該当生徒に関する情報を共有することができた。 ○該当生徒の状況に応じてケース会議を行い、具体的な支援方法を検討することができた。	○該当生徒数が多く、個々の状況を把握しにくいので、保護者の理解・協力を得ていく。 ○生徒の登校状況等に則した支援を検討していく。 ○小規模なケース会議による対応から、より適切な規模による定期的な協議へと、支援を充実させていく。		

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
3 習得段階を意識した双方向の授業を行い、思考力、判断力、表現力の向上に取り組む、確かな学力の定着をめざす。	①積極的に授業改善に取り組む、学力向上を図るため、生徒による授業評価、互見授業や研究授業など校内研修を実施する。	①・「わかる、憶える、できる、教える」といった習得段階を意識した教育実践ができたか。	○1回目の授業アンケートを研究授業に有効に活用できたとともに、2回目のアンケートの評価が向上した。 ○外部人材を活用した校内研修会は年2回実施した。 ○研究授業実施回数は、6月、9月、11月(昨年度:9月、12月)、講座数は、34講座(昨年度:24講座)と昨年度より増えた。 ○授業後の研究協議に生徒も参加させることで、具体的な改善点を確認することができた。	○授業改善に対する具体的な手立てを共有化する必要がある。 ○多くの生徒の意見を聞くことで課題を明確にし、改善点を共有化する。	(保護者) ○伸び伸びと学校生活を送っているようで安心しているが、強制的に学習時間を増やして欲しい。 ○授業や実習、テスト結果へのアドバイス等、生徒一人ひとりにきめ細かく取り組んでいただき感謝している。 ○先生方の指導の統一をお願いしたい。	(学校評価) ○2回の生徒による授業評価アンケートでは2回目の結果がよかったので、授業改善がなされた。 ○きめ細かい補習指導が実施できた。 ○課題研究発表会は昨年より充実したものとなった。 (改善方策等) ○生徒による授業評価アンケートの結果を的確に状況分析し、課題を明確にするとともに、校内研修会を実施し、生徒主体の授業改善に向けてさらなる意識改革を行う。 ○生徒の理解度や到達度に応じた補習を計画的に実施する。 ○課題研究では、個々の課題に応じて大学と連携を充実させる。
		・思考力・判断力・表現力の向上や問題解決能力が強化できたか。	○生徒へのアンケート結果では、昨年よりも、また1回目よりも2回目がプラス評価が高かった。 ○課題研究発表会やインターンシップ発表会での発表能力が格段に向上した。	○生徒による授業評価において、評価が低い部分の内容を今後も分析し、改善を図る。		
	②基礎・基本の学習内容を定着させるため、年間を通して講習・補習、追試指導などを実施する。	②生徒の実情やニーズを踏まえた学習を展開することができたか。	○年間を通じて、5教科3系で延45講座(内訳はテスト対策講座10、課題製作講座13、成績不振者指導講座22)を行った。また、資格検定に向けての放課後補習が5講座(延34日)行った。	○追認指導実施の目安は定着し、成績不振者に対する学習指導が確実に行われるようになった。補習指導に関しても、日常的に行われているが、成績不振者のさらなる減少が今後の課題である。		
	・学習習慣の身に付いた生徒を増やすことができたか。 ・成績不振者を減らすことができたか。	○クラス担任と教科担当の間で連絡を取り、生徒の出席状況・学習状況を把握し、HRへの掲示物によって、定期試験等の行事予定を生徒に意識させた。	○家庭との連絡を密にして、保護者の協力・理解を得た上で、生徒個々に意識向上を促す指導が必要である。			
③課題研究の内容や取り組み状況を充実させるため、高大連携を推進する。	③課題解決に向け意欲的に取り組む姿勢を養うことができたか。	○課題研究の企画・計画段階のレビューは、関東学院大学人間環境学部兼准教授の出席を頂い8テーマの内容で実施した。 ○産業技術短期大学校で技術指導を受けた。 ○課題研究発表会は、充実した発表となった。	○レビューを授業展開に有効に生かすには、生徒が主体的に課題研究のテーマ設定をすること必要である。 ○課題研究発表会の準備時間を確保するための日程設定が必要である。			
4 特別活動やキャリア教育・進路指導の充実を図り、生徒の社会生活実践力を育成し、進路希望の実現をめざす。	①生徒が自分自身で進路選択ができるよう、総合ガイダンスや進路説明会等を実施する。	①・「総合ガイダンスが有益である」「進路希望に応じた進路指導が行われている」という生徒が昨年より増えたか。	○1年生では、生徒の第1希望に基づいて、2学期の早い時期に系選択を行なうことができた。職業理解ガイダンス、ものづくり企業学校出前授業を実施し、職業選択意識の向上に努めた。 ○2年生では、進路ガイダンス、地元企業説明会、SPI2模試、就職試験対策やインターンシップを実施し、生徒が自らの進路について考えられるようサポートした。	○各学年とも地域や産業界と連携したキャリア教育を行うことができ、生徒の職業観・勤労観を育成することができた。その成果を、卒業時の進路選択に活かしていきたい。	(保護者) ○就職進学ともきめ細かい指導に感謝している。 ○進学する際は、どのように進めていくことが必要で、何を頑張らなければいけないのが親子ともどもよくわからいので、本人のやる気のアップのためにも、具体的な進路相談を早いうちから希望する。 ○体育祭やクラス対抗のものをもっと増やし、クラスメイト、仲間で何かをやり遂げたという達成感があると、卒業した後も良い思い出として残り、藤工に入学して良かったと思えると思う。	(学校評価) ○職業理解ガイダンス、ものづくり企業学校出前授業、地元企業高校内説明会、SPI模試、インターンシップ等を計画的に実施し、職業選択の意識付けが図れた。 ○部活動の活動状況や課題の調査を実施し、充実改善に向けて生徒自ら取り組みを深められることができた。 ○生徒会役員を中心に行事の充実が図られた。特に、生徒総会では活発な議論が行われた。 ○部活動加入率は48%で目標の50%には届かなかったが、各部活とも着実に成果をあげた。
		・生徒一人ひとりに応じた進路指導ができたか。	○学校紹介で就職を希望する生徒は、全員内定した。	○進路決定後の学習面や日常生活など、残された高校生活を大切に過ごすための事後指導が必要である。		
	②インターンシップや職場体験への参加を推進するとともに、発表会を充実させる。	②・インターンシップへの参加生徒を増やすことができたか。	○インターンシップの参加者は、夏季休業中に64名と各系での参加者の合計は、117名となった。(昨年度78名) ○2・3学期に重点的に行った進路ガイダンスもあわせて考えると、年度初めに比べて、生徒一人ひとりの進路に関する意識を高めることができた。	○インターンシップの参加者は増加したが、夏季休業中を含めて、組織的な取組みとして全職員の協力体制が不可欠であり、体制を維持していくためには職員の理解がさらに必要とされる。		
	・生徒のプレゼンテーション能力の向上に意欲的に取り組んだか。	○インターンシップの発表会を3/18に実施した。まとめの冊子を充実させるとともに、プレゼンテーションの能力は向上した。	○参加者の増加により、限られた時間の中でのプレゼンテーション方法の検討が必要。			
	③学校行事に対する生徒の主体的な取組を支援するとともに、部活動の活動状況の相互チェックを行い改善する。	③・「学校行事に積極的に参加している」という生徒を増やすことができたか。	○新入生オリエンテーション、生徒総会、球技大会、文化祭等を生徒会本部の生徒で企画運営することができたとともに生徒も積極的に参加した。 ○特に、生徒総会では、活発な議論がなされたとともに、文化祭では、昨年より参加団体が増え、後夜祭も実施することができた。	○文化祭では、生徒によってクラスと系科目・部活と参加団体があり活発に準備活動するが、クラスにしか属さない生徒で準備から受動的にしか行動しない生徒の改善が課題である。 ○次年度は、9月から体育館の改修工事があるため、行事のやり方を検討していく必要がある。		
	・部活動の加入率が50%を超えたか。	○部活動加入率は48.0%(1年46.4%、2年54.6%、3年43.2%)で目標の50%にあと一歩であった。 ○バドミントン県ベスト32、野球部3回戦出場、メカトロクス部県3位全国大会出場等着実に成果を上げた。 ○生徒有志から2つ(ダンス・建築研究)の同好会設立の申し出があり、生徒評議会で承認された。	○現在の加入生徒を進級後も継続し、来年度4月には、新入生オリエンテーションにて、勧誘を進める。			

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
5 保護者や地域と連携した教育活動を通して、地域に開かれた学校づくりをめざす。	①積極的に社会参加する能力や態度を育成するため、家庭・地域と協働した教育を実践する。	①地域と交流する機会を通して生徒の社会性をはぐくむことができたか。	○各事業に生徒が主体的に参加し、述べ252人（藤沢産業フェスタ24、わくわく体験(PTA工作教室含む) 63、六陵祭13、小学生との交流事業53、ロボフェスタ8、県産業教育フェア36、出前授業21、イルミネーション湘南台34)と昨年より12%増加した。 ○小・中学生のアンケート結果はほぼ全ての回答がプラス評価だった。 ○小中学校・地域との交流事業のマニュアルを作成し運用した。 ○11/5に教育活動公開実施し、参加者の評価も好評であったが、外部からの参加者は1名であった。	○参加する生徒が一部に限られることが課題で、取組の成果を参加者数・実施回数以外にどのように評価するの検討が必要である。 ○教育活動公開については参加者が少なく、外部からの意見聴取を得られなかった。積極的にPRして参観者を増やしていく。	(保護者) ○地域に密着し、地元の人から愛されている学校である。 ○ものづくりの良さを、もっと一人ひとりが自覚して、他では勉強できない事をたくさん学んでいることに自信をもってもらいたい。	(学校評価) ○地域等連携事業（藤沢産業フェスタ、わくわく体験教室、六陵祭、小学生との交流事業、産業教育フェア、イルミネーション湘南台等）に延べ1/3以上の生徒が参加し、参加者の評価もよかった。 ○様々な活動内容が、TVKの教育広報番組での放映やタウンニュース等に掲載され、特色ある学校の取組みが周知できた。
	②生徒が主体的に学習姿勢を振り返られるように、小・中学校や地域との連携・交流事業を充実させる。	②連携・交流事業において、生徒が主体的に活動できたか。			(学校評議員) ○中学1年生では、高校選択の目標がまちまちだが、工科高校の特色ある取組みを見たり体験したりすることで工科高校を意識する生徒がいる。 ○教員が同じ目標を持って何のためにやっているのかを考えて取組むことが必要。地域連携では人が変わると出来なくなることがないように、学校の取組みとして対応することが必要。	(改善方策等) ○連携実施後の生徒や連携先のアンケートにより、取り組み状況や課題を把握し、個々の取り組みで終わらせるのではなく、学校全体の取り組みとして更なる充実を図る。
	③近隣の学校や地域との連携を深めるため、学校の特色を生かした地域貢献活動に全校で取り組む。	③・他者とのかかわりを大切にする心をはぐくむことができたか。 ・地域社会との交流活動をととして、社会貢献や奉仕の姿勢を養うことができたか。				
6 責任ある学校運営体制を組織的に確立し、家庭や地域から信頼される学校づくりをめざす。	①職員一人ひとりが自覚を持って、事故・不祥事防止に関する取り組みを充実させる。	①全職員の事故・不祥事を防止できたか。	○全県的な成績処理工程の見直しの中で、本校の実状を踏まえた成績処理工程の全面的な見直しを行い、新たな工程の追加を行った。 ○不祥事防止に関しては、グループごとに、体罰、成績処理、セクハラ、個人情報、生徒指導、交通事故、勤務外の7つのテーマで、課題・目標を定め研修等を実施。特に、体罰防止に関しては、部活動インストラクターにも研修を行った。また、人権教育に関する研修会も実施した。 ○朝の打合せで、不祥事防止に関する各教員からの一言を継続的に実施し、各自が課題を自覚的に捉えることができた。	○新たな工程として、成績処理原簿の政策を導入したが、原簿の作成及び、利用方法の細案に関しては、本年度の試行を検証し、来年度当初に確定する必要がある。 ○「朝の一言」は意識啓発の取組としては優れたものであるため、工夫しながら継続したい。	(保護者) ○授業参観をもっと取り入れると保護者に学校や生徒の様子がわかってよい。 ○生徒、先生、保護者の各代表が直接意見交換を持つ場があれば、具体的な状況が理解されるとともに、課題に対する具体的な改善策等が考えられる。 ○ホームページが開設されている以上、もっと活用して保護者に対しての報告や相談の窓口として活用したほうがよい。	(学校評価) ○生徒及び保護者アンケートでは、学校の取組み状況に高い評価を得た。 ○新校発足10年が経過し、「工科」の特色理解が浸透し、入学生の意識の向上した。また、組織的な授業改善や地道な生徒指導や進路指導の積み上げが評価された。 ○保護者に対してメールやHPで情報を発信するとともに、校内にも活動状況の写真を掲示したことで、学校の取組み状況を理解していただくことができた。 ○保護者対象の系別懇談会を実施したことで、各専門分野の学習内容を理解していただくことができた。 ○様々な活動内容を、TVKの教育広報番組での放映やタウンニュース等への掲載により、広くPRすることで、特色ある学校の取組みを周知することができた。
	②防災訓練の内容を充実させるとともに、家庭との迅速かつ的確な連絡方法を整備する。	②家庭との連絡体制が整備できたか。	○メールシステム登録者数は9割となった。 ○防災マニュアルの改訂を行うとともに、第1回防災訓練(6/5)、かながわシェイクアウト(9/5)、第2回防災訓練(9/18)に実施。昨年に引き続き、現実に即した形で訓練内容とし、学年ごとに体験を行ったが、大きな混乱はなかった。	○メール配信システムについては当初は緊急時の連絡のみであったが、保護者からの要望もあり、学校からのお知らせも何回か流した。さらなる登録者増と内容についても精査し有効に活用する。 ○来年度は、「かながわシェイクアウト」については、第2回防災訓練の中でプラスワンとして実施する。	(学校評議員) ○入学してよかったという生徒が80%というのは大きな成果。反面20%の生徒の状況は、生活面か将来なのかと個別に検討していくのは大変なことである。 ○保護者の9割が、「ものづくりを通して工業の意義や役割を理解させる教育が実践されている」と感じているのは技術指導のたまものである。生徒に充実感や達成感を持たせる工夫が感じられる。	(改善方策等) ○生徒による授業評価アンケートの回数を増やし、的確に状況分析をするとともに、外部講師による校内研修会を実施し、生徒主体の授業改善に向けてさらなる意識改革を行う。
	③・より一層、迅速かつ的確な情報発信を行う。 ・学校目標とその取組み内容について、適切に評価するために引き続き生徒及び保護者にアンケートを行う。	③・的確な情報発信ができたか。 ・具体的な手立てと評価の観点に基づき、課題を明らかにし、解決に向けて意欲的に取組むことができたか。	○ホームページは21回更新したが、ホームページを見る保護者が昨年より減少した。 ○生徒アンケートでは、「この学校に入学してよかった」「実習でいろいろな技術が身に付いた」「各種の資格取得が出来るように取組んでいる」「適切な進路選択ができるよう、ガイダンスや進路相談の充実に向けている」に対するプラス評価が8割を超え、学校の特色を十分理解して入学してくる生徒が増えた。 ○保護者アンケートでは、「日常の教育活動に保護者等の意見や要望が取り入れられているか」「学習における生徒の能力を引き出し、適切に評価しているか」「基本的な生活習慣を身に付けるような、適切な指導が行われているか」「進路選択に応じた、適切な指導が行われているか」では昨年を10%以上上回る結果となった。	○「まちcomiメール」とHPを積極的に活用し、情報発信を行う。 ○全体的な評価は向上しているが、自由記述では評価の二極化が見られた。いただいた意見を謙虚に受け止め生徒の成長につながる教育活動を学校全体が一致団結して取り組む必要がある。		